

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190800017		
法人名	株式会社 平安		
事業所名	グループホーム ききょう		
所在地	岐阜県山県市東深瀬505番地2		
自己評価作成日	平成30年8月7日	評価結果市町村受理日	平成30年10月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2190800017-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成30年8月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様がごくごく自然に生活できるようにお手伝いさせていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、閑静な住宅地にあるが、近くの幹線道路に面した通りには、スーパーマーケットやドラッグストア、飲食店が点在し、協力医院も近くにある。開設時から事業所に対する自治会の理解が難しく、運営推進会議の名称を「事業懇談会」としている。行政担当者や地域の民生委員の参加で進めてきたが、今年度から自治会長の参加が実現し、より地域に密着した運営に取り組んでいる。また、働きやすい職場環境作りにも努めており、食事会を兼ねた職員会議では、遠慮なく意見や要望を言える関係であり、職員の多くは、勤続年数も長い。日々、手作りの食事を提供し、家庭的で穏やかな暮らしが遅れるよう支援に努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の介護で気づいた事や問題点があれば、管理者と職員で話し合い、利用者様が安心して生活ができる様に心掛けている。	5項目の運営理念を、訪問者にも分かるよう玄関に掲げている。職員は、日々心に留め、毎月の職員会議でも振り返っている。利用者が地域と関わりながら、家庭的な雰囲気の中で、ゆったりとマイペースで暮らせるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の子供会が毎年訪問して下さり、一緒にゲームや歌を歌ったり流しうめんをして楽しんでいます。	管理者は地元住民でもあり、事業所の役割や認知症について理解を得られるよう、地域に発信している。子ども会や小学生との交流も継続している。近隣住民からの野菜の差し入れがあったり、歌や演芸などのボランティアも定期的に訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所へこられて相談を受けることはありませんが、職員は地元の人が多いので個人的に相談を受ける事があります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域福祉の相談場所になれたらいいと思っています。	会議名を「事業懇談会」とし、定着している。今年度は、自治会長が初めて出席している。事業所の活動状況や利用者の現状を報告し、意見交換をしている。災害時の避難計画や課題点なども話し合い、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月一回、市の介護相談員さんに、来てもらっています。	市の担当者とは、事業懇談会を含め、日頃から連携を密に行い、活動状況や事故事例などの報告、相談・助言を得ている。行政主催の会議や研修には、積極的に参加している。また、介護相談員の受け入れや、地域の福祉避難所としても協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしなくて、開放的にしています。職員はいつも利用者様の安全であるように見守り、身体的拘束をしない様に取り組んでいます。	玄関の施錠を含め、身体的な拘束をしないケアに努めている。止むを得ない場合には、家族と相談しながら対応し、拘束のない他の方法も試みている。居室での転倒予防の為、センサーライトを設置して利用者の動きを把握しながら、自由な行動を見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月一回の職員会議において、毎回確認合っています。		

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護推進員の研修に管理者が参加し、会議において、日常生活自立支援や成年後見制度について職員に伝えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の見学時に説明し、契約時にも再確認をします。また退所時にもケースに応じ相談を受ける様にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、ケアプラン作成時に家族からの意見要望を聞いています。また、利用者様においては、管理者や職員がそれとなく話しあい、できる限り、不満がストレスにならない様に心掛けています。	家族の訪問時や事業懇談会などで、意見や要望を聴いている。利用者からは、日々の暮らしや介護相談員からの報告書で把握している。家族には、写真入りの通信を隔月ごとに送付し、利用者の状況を知らせている。	家族向け通信のコメント欄には、個々の生活状況を書き添えるなどの工夫で、家族との信頼関係が更に深まる事に期待をしたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議を行うにあたり、職員が問題点を色々と話あったり、問題点解決の提案をしたりしてより良いケアができる様に全員で検討しています。	管理者は、職員が日常的に意見や要望が言える環境を整えている。食事会を兼ねた職員会議では、勤務体制やケア方法、備品の購入などの意見に耳を傾け、速やかに対処し、改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議において、職員同士のコミュニケーションがとれる様に食事会を兼ねて毎月行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	養成講座を受講していた技術や知識を利用者一人一人の介護に役立てていける様に努めています。また、受講者には受講費の補助を行っており、県の講習会等に希望者は勤務として参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同業者との交流を図り、勉強することはとても良いことと思います。市の介護保険事業者連絡協議会に参加し交流を深めたいと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では本人との会話を大切に本人の思っていることや不安に思っていることを聞き出して安心して生活できる様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望をよく聞いて利用者様に合ったサービスを提供しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族がその時点で何が必要かを見極め、安心して利用できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護するといった。一方的な関係だけではなく、共に暮らすという。関係が大切だと思っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所された時の本人の状況説明したり、家族の思いを伺って介護に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所当時は、知人友人の訪問もありましたが、年が経つにつれだんだん少なくなって来ております。	訪問した家族と共に出かけたり、馴染みのかかりつけ医に受診する人もある。高齢化に伴い、年々、面会者は減少しているが、隣接する施設の利用者や定期的に訪問するボランティア、マッサージ師、理容師とも馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が、孤立しないように関わりあいや支えあいをしながら楽しく暮らせるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した場合も必要に応じて本人や家族の相談に応じる様に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の生活の中で必ず各声掛けをし、困ったことはないか声を聞く様に努めています。毎月職員会議を開いているので、その中で全員で把握する様に努めています。	入居時に、利用者情報や生活歴を聴き、全職員で共有している。日々の暮らしの中でも、本人の思いを聴いている。職員は、常に微妙な変化を見落とさないよう努め、課題を検討しながら、その人らしい暮らし方に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方との話の中で、これまでのサービスのあり方を考えなおしたり、職員全員が、意に沿う様に心掛けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人が違う状態なので職員全員が情報を共有し、サービスに当たっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士が意見を出し合い、話し合いをする事で、よりよい介護計画が作成できそして実践できる様に努めています。	介護支援専門員は、利用者・家族の希望を把握し、介護記録や職員の意見を集約し、介護計画を作成している。計画に沿ったケアの実践とモニタリングの結果、課題が見つければ職員で検討し、家族の了解の下、計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌に日々気づいたことを記入し、全員に伝えることとしています。職員会議においても個人の問題を前もって把握して内容ある話し合いをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様全員に全く同じサービスを提供するというのは、大変難しいことです。やはり、利用者様一人一人の状態を把握し、寄り添いそして、その時々ニーズに合った支援を行っています。		

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員の方々には運営推進会議に参加していただき、施設の状況等を共有して頂いております。また、市から介護相談員さんが来て下さり、利用者様と会話され話を聞いて頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医による受診をすることで、細やかな気づきができると思います。継続的に診ていただけることで治療方針も的確に進められています。	入居時に、かかりつけ医を選択できる事を、家族に説明している。かかりつけ医や専門医への受診は、家族対応を基本としているが、家族の都合や緊急時には、職員が柔軟に対応している。協力医の定期往診の他、必要時には歯科医の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	薬の注文や利用者様の現状を主治医と相談して対応しています。職員も看護師より説明を受け、実践しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された時は管理者及びケアマネージャが入院先の病室に顔を出して、利用者様が不安にならないように努めています。また、早期に退院できるよ。担当医師と相談をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が普段の生活で必要となれば、病院等への移動となりますが、できるところまではさせていただく様にしています。終末期には家族の同意をいただき、看取りをさせて頂いたりもしております。職員は常に連絡しあって、対応も柔軟に変化させています。	契約時には、重度化・終末期の指針を家族に説明し、同意を得ている。医療機関と協力し、出来る限り、ホームでの生活を支援している。重度化、終末期には、医師・家族・関係者で方針を共有し、自然な看取りを含め、最良の選択が出来るように支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練は年二回開催し、事故発生に備え、通報、消火、避難誘導等の訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	いつ起こるか分からない。災害に備え、消防訓練のおり、消防士の方より地震・水害に対してはハザードマップを利用して避難経路等々の確認をいたしました。	災害訓練は、消防署の協力の下、年2回行っている。夜間の地震・火災を想定し、通報・避難誘導などを実施している。事業所には、井戸があり、自家発電機やソーラーを設置し、備蓄も確保している。市の依頼を受け、福祉避難所として、災害時の受け入れ体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳を大切にプライバシーも守ることは全職員認識していると思います。すれ違う時の声掛け声の大小心遣い等職員同士で常に確認し合っています。	職員は常に笑顔を忘れず、利用者の誇りを傷つけない言葉遣いや対応を心がけている。排泄や入浴時には、特に羞恥心に配慮し、プライバシーの確保に努めている。また、個々の生活習慣を尊重し、無理強いせず、自主性を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を十分に表現できない。利用者が多い中、職員1人で判断するのではなく、正職員でその人の希望や願いを見だし、確認し合っています。項目36で述べた様に細かい変化に気づき報告することは大切な作業の一つです。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中は全員参加型のレクリエーションをやっていますが、午後からは利用者の好みによって違った事やっています。塗り絵、パズル・カラオケなど楽しいときには集中して過ごされています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	快適に過ごしていただくために気候の変化に常に対応できる様心掛けたり同じ服装にならないよう手助けしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にとって1日三回の楽しみだと思っていただきながらメニューは多くの食材を使い、いろんな献立ができるよう工夫しています。好き嫌いはあるので別メニューを加えたりしながら、全員完食を目指しています。また、台拭きなどお手伝いしてもらっています。	食事当番の職員は、利用者の咀嚼に合わせた形態や好みを考慮しながら、家庭的な料理を品数多く作っている。利用者もテーブル拭きや自分専用の箸やコップを並べている。会話を楽しみながら、職員も同じ物を食べ、利用者の完食を目指して支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	少量しか摂られない利用者さんには、少しずつ回数を多くとっていただく様支援していることと、栄養補給などについては前にも書きましたが、メニューが重ならないよう。多種類の食材を使っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアはすべての利用者様に支援させて頂いています。自分で口腔ケアができる方は見守り声掛けして清潔保持に心掛けています。		

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	歩行困難の方を除き、各自の力や習慣をいかして排泄パターンをつかみ自立に向けた支援をしています。	自立度の高い人には、見守りながら、さりげなく促すなど、個々の状態に合わせて対応し、昼夜とも、トイレでの排泄を支援している。紙パンツから布パンツに変わり、本人負担の削減に繋がった人もある。重度化し、終日おむつ使用の人もあるが、清潔保持に心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便が難しい人に対しては体操などを行ったりします。また牛乳を飲むなりして排便をよくする様にしています。暑い日の熱中症対策としてこまめな水分補給を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間は決めて実施していますが、入浴時間はご本人の希望により長かったり近かったりと様々です。浴室内の職員との会話を楽しんだり、個々で楽しまれています。	入浴時間や順番など、個々の希望を聴きながら、柔軟に対応している。嫌がる人には、声かけのタイミングを工夫している。また、常にコミュニケーションを図りながら、ゆったりと気持ちの良い入浴を支援している。重度者はリフトを使用し、浴槽に浸っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なかなか眠れず何度もトイレまでこられそのまま居室へ戻られる方、自分が納得できるまで居間に見える方、人それぞれ生活パターンが違います。時間を置いて「ゆっくり休んでね、」との声掛けをし、就寝して頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は看護師が、服薬支援は職員がしています。食事が終わったのを確認して、飲み忘れや誤薬がない様、何人かの目でチェックし服薬して頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝のモップ掛けを手伝ってくださる方や、洗濯物を率先してたたみに来てくださる方、壁に飾る季節ごとの作品も完成したら、写真を撮りましょうと楽しみを持って進みます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状において、自力歩行の可能な方が少なくなって、日常的な外出は難しく、戸外でのリクリエーションどまりになっています。	日頃は、事業所周辺の散歩や、ベランダで外気に触れている。家族の協力を得ながら、買い物や食事に出掛ける人もある。年間行事では、ドライブを兼ねて季節の花見や紅葉狩り、伊自良湖などへ出掛けている。家族には、福祉車輛の貸し出しを行っている。	

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様が日常の暮らしの中で、お金を所持しつかえる事が必要かと思いますが、現状では難しいです。必要な時は管理者が必要に応じて対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書きたいと希望された時は支援しています。また、電話も希望された時はその時々状況に応じて対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有生活空間は、居心地良く過ごせる様に配慮しています。季節を感じる飾りをしたり行事(七夕やクリスマス等)の飾りつけを利用者様と一緒に作成し展示しています。	廊下や居間も広く、清潔感がある。ソファやテーブル、テレビを要所に配置し、カラオケも用意している。対面式の調理室からも、センサーライトで居室内の利用者の様子が把握できる。手作りの作品や花を飾り、利用者が好きな場所で居心地良く過ごせる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が1人でいたいときは、居室へ自由に出入りされ、また、人と共有したいときはソファで過ごされたりテレビを見たりされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様や家族の意見も取り入れ馴染みのものを生かしています。(花や飾り等)	利用者の見守り支援機器として、各居室の入り口には、色違いのセンサーライトが取り付けられている。馴染みの鏡台や家具類を持ち込み、使いやすく安全に配置している。家族の写真や花を飾り、自分らしく落ち着いて過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	長い廊下の手摺りを利用され、自分の居室まであるかれる事が大きな運動です。すぐに車椅子生活にならず共有スペースやトイレに近い部屋に移って頂いたりもしています。		